



月刊 千葉労働運動

総力結集しよう

暑さをばっさりとばし

支部

九・一八労働者集会に向けて、いよいよ残すところ一〇日余りとなった。「九・一八集会」は、単なる集会ではなく、一つの闘争である。

今秋から九五五年にかけて、労働者のために闘う労働運動の新しい潮流を本場に創り出せるか否か、そこに日本の労働者の未来の一切合財がかかっていると、言っても過言ではない。

集会への賛同署名一八〇越える

八月二七日、本集会に向けた賛同者による第三回実行委員会が開催され、一都六県から賛同者が集まり、熱心な討論が交わされた。実行委員会では、正式な集会名称やスローガンをはじめ、集会成功に向けての今後の

取り組みが討論の中から練り上げられ、決定された。

また、九月二日現在、本集会への賛同署名が一八〇を越え、関東圏での「九・一八」に対する期待と熱い熱意が寄せられている。

現場で労働者・労働組合を支援、真面目に闘おうとしている仲間、村山社会党や連合の裏切りの中で、混乱と失望、そして怒りの中にたたき込まれている。そして展望を見いだすために、苦闘しているのである。

関東圏において、本場に労働者の立場に立ち、労働運動を進める労働者が一〇〇〇名規模で結集した時、情勢が動くと言信する。

九・一八労働者集会へ全組合員は、総力で集まろう！

『9・18労働者集会』に約200の労働組合、個人の賛同署名が寄せられています。(寄せられた意見の一部を紹介します。)

◎ 今、基幹労働者にも合理化・首切りの攻撃が続き、闘わない「労働組合」の下で、失業者が次々に生み出されています。私たちは、野宿労働者の「生きる権利」を求めて運動しています。この問題の解決は、日本労働運動の発展を通して、具体的に模索されていくものであり、核の部分で共通の「敵」を倒す必要があるでしょう。とりくんでいる領域はちがいますが共に力を合わせ、労働者の希望ある未来を切り拓いていきましょう。

山谷労働者

全電通

M分合執行委員

社会党も反戦・護憲を主張する部分を守旧派として社会党から排除し、何としても政権の座が欲しいらしい。現場労働者は戦争反対や、憲法を守ろうと言っているのが悪い、当然のことではないか、という声が多く聞かれます。歴史の転換が目に見えるようになります。

丁病院職組

地域で行われた国鉄集会に組合決議で参加しました。動労千葉の呼びかけでした。このような集会在一回で終わるのは、もったいないなあと感じていました。九・一八の呼びかけスタイルで今後もずっと継続した方がいいと思います。反戦反核集会とセットですすむという方法がいいと思います。

たたかう労働運動の新しい潮流をめざす

9・18

労働者集会に集まろう!

【決定されたスローガン】

- 大失業時代に抗する労働運動を!
- 反戦・反侵略一差別・排外主義と対決する労働運動を!
- 国鉄闘争を水路に、連合路線と対決する労働運動をつくりだそう
- 村山自社連立政権打倒! たたかう労働者の党をつくりだそう!

(日教組元執行委員)

戦後労働運動のなかで、社会党・総評ブロックの果たしてきた役割は、今日の社自村山政権によって、完全にその幻想はふきとんだ。労働者階級は、今自らの利益を自らの手で守らねばならない。そのためにも9・18集会を成功が先ずは必要。心そこから賛同する。

(私鉄K分会長)

社会党の村山政権誕生後の政局は、戦前の翼賛体制を労働官僚と一体となって画策しています。今こそ、現場労働者の社会変革のエネルギーを結集し、下部から労働運動の再建をめざしていく必要がある。戦争を画策する独占資本との階級闘争の発展を勝ち取っていきましょう。